

はにわ通信

No.192 平成 23 (2011) 年 3 月号

【続・1枚の写真～松坂城にあった「お堀」の記憶2～】

松坂城に「お堀」があったことは前回お伝えしました。改めて紹介した写真以外の資料を探してみたところ、昭和 22 年 9 月 23 日に撮影された航空写真に「お堀」を見つけることができました。撮影したのは、アメリカ軍です。当時、わが国を占領していたアメリカ合衆国は、上空からの全国各地の写真を B29 と呼ばれた飛行機から撮影しており、その中に松坂地域の写真も含まれています。

該当する部分を拡大したところ、現在の市役所敷地の西半分の部分に、「お堀」がはっきりと写っているのが確認できますし、阪内川沿いには土塁（土手）と思われる部分も写っています。また、城の正面玄関にあたる「大手口」の部分が、はっきりと鍵の手状に曲がっている様子も確認できます。

撮影された目的はまったく異なりますが、この写真もかつての松坂城の姿を知る上で大変貴重な資料です。遺跡の調査は発掘だけでなく、このような古い写真も資料として使いながらすすめているのです。（担当）



航空写真に写る松坂城の「お堀」(○印の部分) 昭和 22 年撮影

【黄金の土筆】

金色の ^{つくし}いとかななる ^{ひと}ものなれど ^つ人土筆摘む ^{よさの あきこ}みづうみの岸
与謝野晶子

土筆は桜が咲きはじめるころ、川の堤や日あたりのよい野山の土のなかから筆さきのような頭をもちあげます。古くは「つくづくし」「つくつくし」といわれ、語源に「つくつく子」や「突く突く子」をあてることもあります。また、旬の食材として春の食卓をいろどったりします。

晶子の歌は、土筆を「金色」にとらえた色彩感覚のみずみずしさとともに、「湖水春日」のありさまを印象深くよみあらわしています。

平成 22 年度も最終月をむかえました。今年度、文化財センターには、4万5千人をこえるみなさまがお越しくださいました（2月調査）。とりわけ、レンガ造りの市民ギャラリーは稼働率が93%を上まわり、月平均で3千人をこえる方々においていただきました。また、はにわ館は月平均1千人前後の見学者の方々ににぎわいました。これもひとえにみなさま方のおかげと職員一同心から感謝いたしております。平成 22 年度中にたまわりましたお引き立てに対しまして、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。また、次年度におきましてもよろしく願い申し上げます。

与謝野晶子 明治・大正・昭和前期の歌人



(所長)

【文化財センター はにわ館・ギャラリー 3月の催し物予定】

【はにわ館】 入館料 100 円（18 歳以下無料。） 月曜日、祝日の翌日は休館です。

- 第 1 展示室 ・常設展「宝塚古墳の謎」
- 第 2 展示室 ・後期企画展「まつさかの歴史文化風土を考える」 ～ 3/27 (日)

【ギャラリー】 入場無料

- 第 1 ガラリー ・2010 アートフォーラム三重松阪集中発表 7 人展 ～ 3/6 (日)
- ・パッチワーク作品展 3/25 (金) ～ 27 (日)
- 第 2 ガラリー ・嬉洋会作品展 3/16 (水) ～ 21 (祝) *21 日は 16 時まで
- 第 3 ガラリー ・三重裕福洋画展 3/16 (水) ～ 21 (祝) *21 日は 16 時まで
- 第 2・3 ガラリー ・三重二紀春期展 3/9 (水) ～ 13 (水) 10 時から 17 時 *13 日は 16 時まで

開館時間：9 時から 17 時（入館は 16 時 30 分まで）

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【サイト】<http://www.city.matsusaka.mie.jp/>



バーコード読み取り
(文化財センター情報)